

わがまちの

地域おこし協力隊

町では、3年前から地域おこし協力隊を募集し、現在16名の隊員がそれぞれの分野で地域課題解決に向けた活動や地域協力活動を展開しています。町内で生活しながら、活動する地域おこし協力隊員の声を今月号から順次に紹介します。

地域おこし協力隊とは・・・

人口減少や高齢化等が著しい地方自治体において、地域外の人材を積極的に受け入れ、地域おこしに係る活動に従事してもらいながら、その地域への定住・定着を図る取り組みです。

町では、地域活性化やU・イータウンの受入促進などの町の課題解決に取り組む人材や、農林畜産業の新たな担い手として受け入れ、地域力の維持・強化を図っています。

知ってる？隊員の活動

地域力の維持・強化に資する活動に従事する「課題解決型隊員」と、自ら起業することにより町の課題を解決する「起業独立型隊員」がいます。現在、課題解決型隊員が行っている業務は次のとおりです。

- ・島根リハビリテーション学院
魅力化コーディネート業務
- ・農業応援研修(奥出雲トマト)
- ・「奥出雲はうれんそつ」
- ・「奥出雲と牛」
- ・婚活イベント企画相談支援業務
- ・尾原ダム水源地域活性化推進業務
- ・定住相談若手育成コーディネート業務
- ・観光情報サイト運営業務
- ・横田高校魅力化コーディネート業務

地域おこし協力隊の現場を訪ねて

今回16名の隊員の中から紹介するのは、昨年4月から定住コーディネーターとして、役場地域振興課において定住相談業務などに従事している糸賀夏樹隊員、濱田達雄隊員、玉井圭太隊員の3人です。

地域おこし協力隊に応募したきっかけを振り返ってもらった、「もともと田舎暮らしを希望していて、仕事探しに悩んでいた時、地域おこし協力隊の話を知りました。奥出雲町の募集には定住コーディネーターがあり、自身が移住経験者として移住について悩んでいる人たちのサポート役になりたいと思い応募しました」と話すのは東京出身の玉井さん。

出雲市出身で大阪府から本町にUターンをされた糸賀さんは「場所ありきで移住を希望し、仕事を探していたところ、定住コーディネーターの業務を知り応募しました。3年間でどこまでできるかわからなけれど、同じ移住者の立場で役に立てたらと思いました」と当時を振り返ります。



▲庁舎内での仕事の様子

「高校卒業後、奥出雲に帰ってくるつもりはなかったけど、若もん未来会議に参加して、町の現状を知っていく中で危機感を持ったのがきっかけ。同じ頃、協力隊に誘われて今だったら役に立てると思い応募しました」と同町出身で町外に転出した経験をもつ濱田さん。それぞれの思いを抱き、奥出雲町に集まり、課題解決に向け活動をしています。

3人が行っている主な業務内容は、「移住相談」「空き家バンクの管理」です。移住相談では、県内外のフェアに出向き移住希望者の相談に対応した

16名の協力隊員の紹介

スポーツイベントプランナー 尾原ダム水源地域の活性化を推進 おおいしけんた 大西健太 隊員 (松江市出身)	縁結び支援員 縁結び相談やイベントを企画 うちだ ひさよ 内田寿世 隊員 (東京都出身)	農業応援研修員 (株)ふくにて ほうれん草栽培に従事 さとう くにかず 佐藤邦和 隊員 (埼玉県出身)	農業応援研修員 奥出雲農園で トマト栽培に従事 ながもと ひろし 長本寛司 隊員 (徳島県出身)	農業応援研修員 横田繁殖育成センターで 和牛飼育に従事 いとう けいた 伊藤慶太 隊員 (出雲市出身)
定住コーディネーター 定住希望者の相談、案内役として活躍中 はまだ たつお 濱田達雄 隊員 (奥出雲町出身)	定住コーディネーター たまい けいた 玉井圭太 隊員 (東京都出身)	定住コーディネーター いとが なつき 糸賀夏樹 隊員 (出雲市出身)	横田高校魅力化コーディネーター 「横田高校魅力化プロジェクト」を推進 いのうえ あきら 井上 晃 隊員 (大阪府出身)	横田高校魅力化コーディネーター ふるかわ きよひろ 古川清博 隊員 (京都府出身)
起業独立型地域おこし協力隊員 自然体験活動を企画・運営 おんだ ちさき 音田千咲 隊員 (松江市出身)	起業独立型地域おこし協力隊員 カフェなどの交流拠点づくりに挑戦 よこた やすのり 横田泰規 隊員 (兵庫県出身)	起業独立型地域おこし協力隊員 外国語塾の運営などを展開 りよんおく 李蓮玉 隊員 (大韓民国出身)	観光情報サイトクリエイター 「奥出雲ごっこ」を運営中 ふくま よしゆき 福岡芳行 隊員 (奥出雲町出身)	島根リハビリテーション学院魅力化コーディネーター リハ学の魅力化、活性化を推進 ひらい ゆうき 平井優樹 隊員 (岡山県出身)

り、現地案内を行ったりしています。また、空き家バンクでは、空き家の有効活用を通じて、移住及び定住の促進による地域活性化を図っています。現在、空き家活用事業「OSCCカゴコロ・奥出雲ディープリノベーション計画」がスタートし、町内外から人が集まり空き家の利活用について話が進められています。

1町内外に多くのつながりができた

町内外の人と接する機会が多い3人は、「都会の人は田舎暮らしにとても興味を持っています。地方の人が都会に憧れを抱くように、都会の人でも地方を魅力的だと考えています。もつと住んでいる地域に自信を持つてほしい」と活動を通して感じているそうです。

また、「町内に知り合いが急増したことで、地元への愛着が増した」と濱田さん。玉井さんは、「会う人に『東京からよく来てくれたね』と声をかけられて嬉しい。様々な活動を通して、町内外に多くのつながりができた」など、それぞれの活動のやりがいや楽しさを話してくれました。

奥出雲町で暮らして1年が経ち、3人が共通して思うことは生活の不便さがないこと。「お店が早く閉まること、スーパーに定休日があることにはびっくり。だけど無くても困らない。そして人が優しい」と玉井さん。また、「天候を心配したり、季節の香りを気にしたりするようになった」と糸賀さん。一方で「空き地が増えて、横田の町並みが変わった。昔の雰囲気も懐かしい」と濱田さんは言います。休日は、イベントで出かけたり、協力隊員で畑を耕したりしているそうです。

1わくわく感をつくりたい

最後に3人の今後の目標、抱負を聞きました。まずは、プライベートでゲストハウス「かがり屋」を立ち上げた玉井さん。今年5月にプレオープンを終え、8月11日にはグランドオープンを控えています。「かがり屋はガソリンスタンドをリノベーションしたのが見どころ。またリノベーションには地元の高校生をはじめ多くの方に関わっていただきました。中間目標は、島根県のゲストハウスー最終目標は東京に逆輸入し、生

今回の取材地... “奥出雲GUESTHOUSE かがり屋”



アクセス:仁多郡奥出雲町稲原605-9
お問い合わせは080-5670-5765(代表:玉井)まで